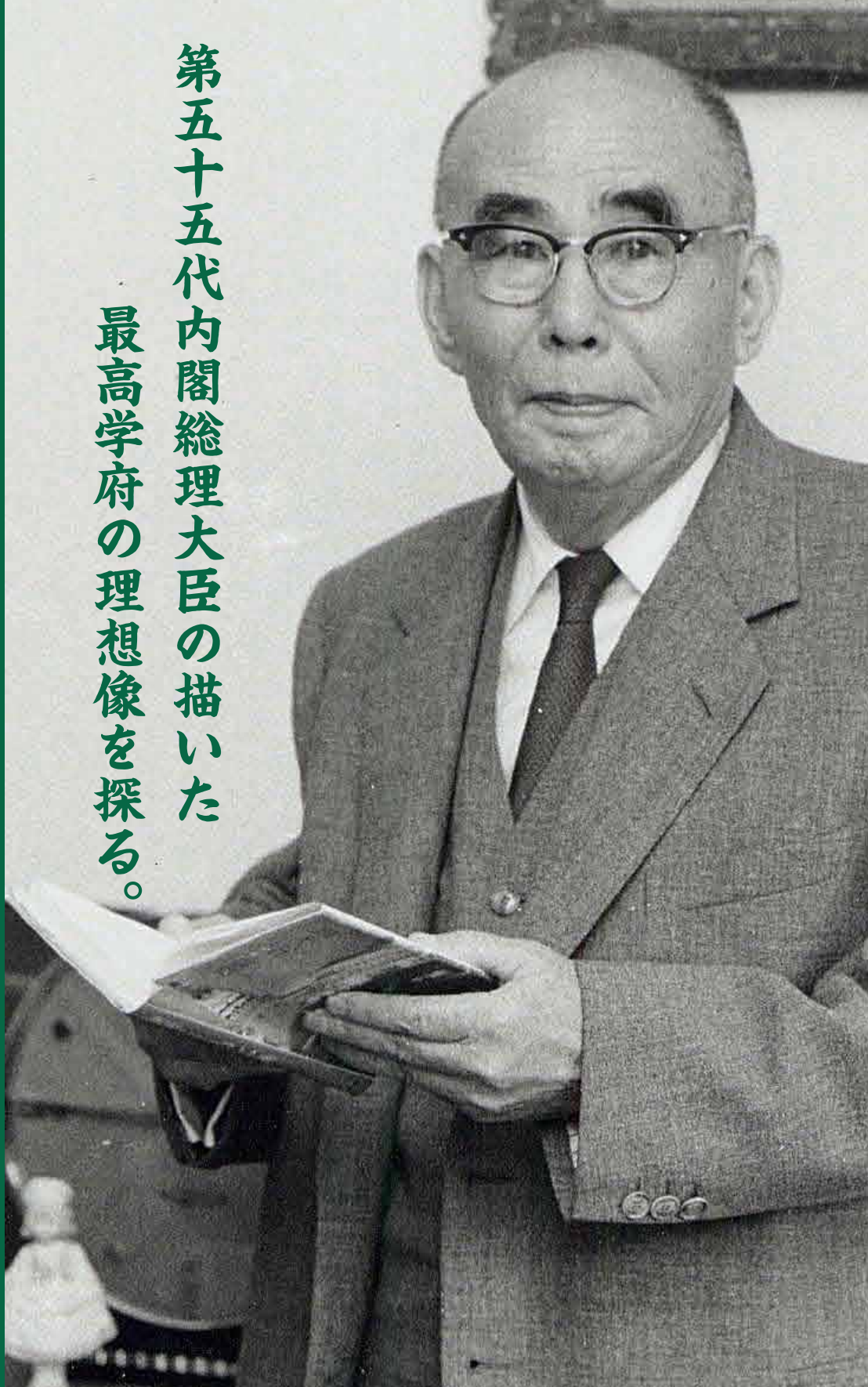


石橋湛山と立正大学

立正大学開校140周年記念特別展

第五十五代内閣総理大臣の描いた
最高学府の理想像を探る。



立正大学

2012年 10月1日(月)～10月31日(水)

休館日:土曜、日曜、祝日、10月19日(金) ※但し、10月13日(土)は開催致します。

石橋湛山記念講堂 ホワイエ

開催時間:10:00～16:00(入場は15:30まで)

入場無料

◎主 催:学校法人立正大学学園

◎共 催:財団法人石橋湛山記念財団

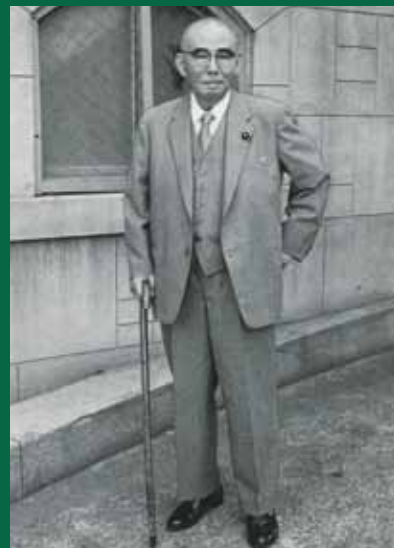
大学の経営再建や教育、研究に強いリーダーシップを発揮した 哲人学長・石橋湛山と立正大学140年のあゆみ

本展示会では、三つの時代を軸として、立正大学140年の歴史をまとめています。

第一の時代は、大学への昇格期です。140年前に芝二本榎に開設された小教院は、その後日蓮宗大学林として大崎へ移転し、1924(大正13)年に立正大学へと昇格しました。展示ケースには当時の各種文書が並びますが、これらは日本の教育史や文教政策史においても重要な史料となっています。

第二の時代は、石橋湛山学長期です。石橋先生は学長在任中に通産大臣や総理大臣を務められましたが、多忙の中でも決して思索と執筆を怠ることはありませんでした。展示コーナーには、政治家石橋を象徴する大臣任命書類(写し)とともに、現在も保存されている石橋先生の書齋から、言論人石橋を偲ばせる品々がおさめられています。

第三の時代は、現代です。グローバル化の中、我々は震災復興やエネルギー問題など困難な課題に直面しています。立正大学が石橋先生の精神をどのように受け継いでいくのか。国際的にも貴重な仏教研究の成果や、世界各国の大学との交流協定書が、今後の方向性を示しています。



■ 立正大学に残る古資料

- (左) 日蓮宗大学第6代学長の杉田日布(石橋湛山の実父)に提出された証明下付願[1915(大正4)年]
- (中) 教場日誌 中等科老年級B組[1918(大正7)年4月]
- (右) 財団法人立正大学理事長から大蔵大臣の石橋湛山に宛てた「戦時補償特別税免除申請書」[1946(昭和21)年11月]



■ 第16代学長石橋湛山の活躍



日中国交回復の先駆けとなった「石橋=周共同コミュニケ」(複写)
[1959(昭和34)年9月20日]

お問い合わせ先

立正大学総務部総務課史料編纂室

東京都品川区大崎4-2-16

TEL. 03-3492-2681(内線:4199)

問い合わせ時間: 10時~16時

- 大崎駅(JR山手線、湘南新宿ライン、埼京線、りんかい線)、五反田駅(JR山手線、都営地下鉄浅草線)から徒歩8分
- 大崎広小路駅(東急池上線)から徒歩5分

■ ネパールのティラウラコット遺跡発掘調査



釈迦が青年時代を過ごしたカピラ城と目される遺跡調査の計画書と報告書。調査は石橋学長期に開始された。

<http://www.ris.ac.jp/>



開校140周年